

## 最近の諸提言におけるエネルギー政策上の石油の位置付けについて

最近のエネルギーを巡る状況を踏まえ、自由民主党、総合資源エネルギー調査会等を始めとした関係方面の今後のエネルギー政策に関する検討、取りまとめがなされている。その中で、あらためて石油の重要性と今後の有効利用の必要性が示されたところである。

### 経済産業省

総合資源エネルギー調査会石油分科会石油政策小委員会報告書 - 2006.5.30

**石油は、……今後とも、わが国エネルギー供給の中心的な役割を占める。このため、石油の安定供給確保は、エネルギーの安定供給の基礎。**  
石油依存度が80%近くあった1980年に制定された代エネ法や新エネ法は、必ずしも重質油対応、残渣油処理等、新たな石油資源のクリーンで高度な活用の動きを奨励していない。エネルギー効率等を評価する観点から、こうした石油資源の新たな活用の動きを位置付けることが望まれる。

### 日本経団連

わが国を支えるエネルギー戦略の確立に向けて - 2006.5.9

**石油は……、経済性・利便性の観点から今後も重要なエネルギー**といえる。……中東諸国との関係強化等、現実的な施策によって安定供給を確保すべきである。  
重質原油に多く含まれる**残渣を機動的に処理できる石油精製能力を配備しておくことが国内需給の安定化にも有効。**  
代エネ法は、……石油依存度を低下させていく目的で制定されたものであり、既に、その社会的な使命は達成した。今後は、**全ての化石エネルギーをより有効に活用するという観点から、使用段階でのエネルギー効率性、環境特性を評価できる枠組みに見直していく必要がある。**

### 自由民主党

総合エネルギー戦略中間報告 - 2006.5.24

エネルギー安全保障を強化するためには、**特性を考慮した多様なエネルギー源の組み合わせが必要。**  
**液体燃料である等、利便性の高い石油は、当分の間、一次エネルギー中、最大のシェアを占め、また、燃料以外にも石化原料等に幅広く用いられており、その有用性は今後とも高い。**  
既に**残渣油のIGCC利用など石油の有効利用の取り組みが進んでいるが、引き続き、安定確保とクリーンかつ効率的な活用が課題。**